

Sustainability Report 2021

Hokuriku Coca-Cola Bottling Co.,Ltd.

サステナビリティレポート2021 北陸コカ・コーラボトリング株式会社



INDEX

- 02 経営理念とビジョン
- 03 トップメッセージ
- 04 日本のコカ・コーラシステムの概要
- 05 日本のコカ・コーラシステムのサステナビリティ
- 06 ■ 多様性の尊重
- 07-10 ■ 地域社会
- 11 ■ 資源「容器の2030年ビジョン」
- 12-14 ■ ① 設計
- 15 ■ ② 回収 ③ パートナー

【編集方針】

本レポートは、日本のコカ・コーラシステムのサステナビリティに対する考えを示し、またそれに基づく具体的な当社グループの活動内容や取り組みをわかりやすく紹介し、みなさまからのご意見をいただき、持続可能な活動につなげることを目的に発行しています。

【対象期間】

2020年1月1日～2020年12月31日 ※活動内容の一部は2019年・2021年も含みます

経営理念

私達は、リフレッシュメントの提供を通じて社会に大きな価値を提供し続けます。

経営ビジョン

- 働く喜びが実現でき、元気ある企業を目指します。
- それぞれが自立し、純粋に価値創造を追求し、常に進化発展し続けます。
- 消費者、顧客、地域社会に愛され、信頼され、身近で魅力あふれる企業を目指します。

社訓

創意 アイディア

奉仕 サービス

勇気 ファイト

大切にしている3つのもの

- ① 仕事を通じて社会に提供している価値
 - リフレッシュメントの質と量を高めていく
- ② お客様
 - お客様に楽しんでいただく、喜んでいただく事
- ③ 仲間
 - 製品に携わる全ての仲間を大切にする

TOP MESSAGE

社会の変化に対応しながら、本質を追求し、さわやかさをつなぐ企業であり続けます

当社は1962年に前身である北陸飲料株式会社を富山県砺波市とнамиで創業して以来、ふるさとの豊かな水の恩恵を受け、清涼飲料の製造・販売を行ってきました。おかげ様で2022年には創業60周年を迎えます。

私たちはこの豊かな水がなければ事業活動が継続できないということを認識し、感謝の気持ちと責任をもって資源を次世代につなぐ役割があると考えています。そこで当社は庄川水系の環境保全を目的として2005年より毎年南砺市なんとで「うるおいの森づくり」植林活動を行っており、活動は今年で17年目となりました。

さらに今年、創業地である砺波市、植林活動で協同している南砺市とSDGsに関する包括連携協定を締結しました。これまでも様々な自治体や団体様と協同して参りましたが、地域社会が抱える課題をともに解決するため、私たちが60年間育んできた地域のネットワークを最大限活用し、さらに進化した地域と地域、企業と企業をつなぐ存在になりたいと考えています。

今、世界では、地球規模での環境問題やパンデミック、複雑な社会課題が人々の暮らしにますます大きな影響を与えており、サステナビリティの実現が喫緊の課題となっています。その中で昨年から続く新型コロナウイルス感染症は、当社の事業活動に大きなマイナスインパクトを与えました。

しかし、目の前の数字やメリットを追い求めるだけでは、持続可能であるとは言えません。

本年は人類全体にとって「分断と対立」を選択するか「共感と共助」に向かうのか重要な分岐点になると思います。このような状況に対して一企業としてできることは僅かなことではありますが、サステナブルな社会の構築を目指しつつ、グループ内はもとより、地域社会全体に対しても「共感と共助」を更に育めるような取り組みを積極的に展開して参ります。



北陸コカ・コーラボトリング株式会社
代表取締役会長

稲垣 晴彦



北陸コカ・コーラボトリング株式会社
代表取締役社長

井辻 秀剛

北陸コカ・コーラグループ 事業概要

地域に根ざしたリフレッシュメント創造企業を目指し、富山、石川、福井、長野県のみなさまに“さわやかさ”をお届けしています。

商号 北陸コカ・コーラボトリング株式会社(コカ・コーラ指定会社)
HOKURIKU COCA-COLA BOTTLING CO.,LTD.

本社所在地 〒933-0397 富山県高岡市内島3550番地

会社設立日 1962年(昭和37年)6月5日

資本金 7億3,283万6,500円

売上高 412億5800万円(2020年実績)

代表者 代表取締役会長 稲垣 晴彦
代表取締役社長 井辻 秀剛

従業員数 358名(2021年7月現在 正社員のみ)

事業内容 清涼飲料の販売

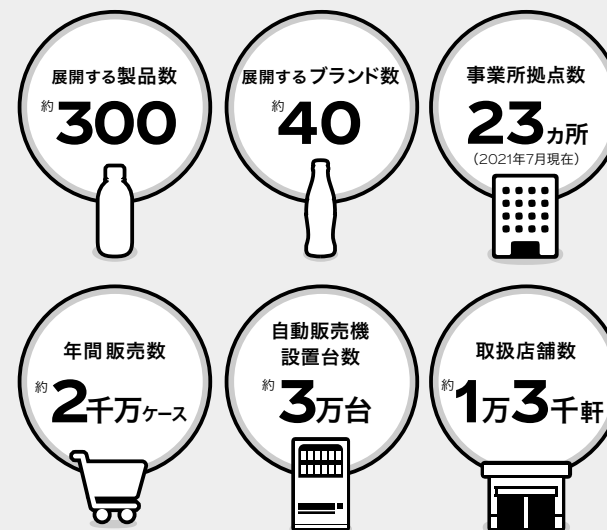
グループ会社 株式会社ベネフレックス
北陸コカ・コーラプロダクツ株式会社
株式会社なぶーる

協力会社 GRN株式会社 株式会社富山アメニティシステム
IRMジャパン株式会社 株式会社北陸リサイクルセンター
株式会社ヒスコム 株式会社リラックス
若鶴酒造株式会社 有限会社ウイック
日本海調温株式会社

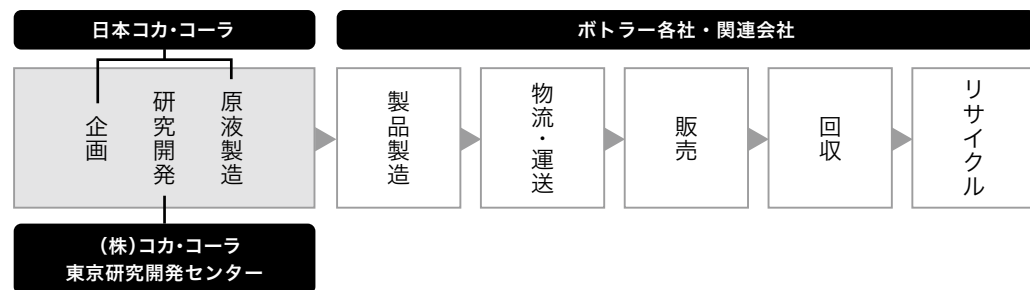
関係会社 双爽コーポレーション株式会社



数字で見る北陸コカ・コーラグループ



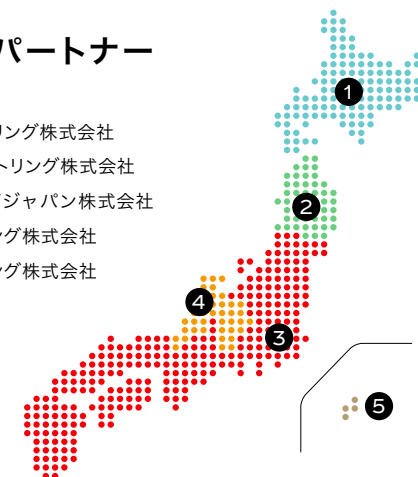
日本のコカ・コーラシステム



日本のコカ・コーラシステムは、原液の供給と製品の企画開発やマーケティング活動を行う日本コカ・コーラ株式会社と、製品の製造・販売などを担う5つのボトラー会社および関連会社で構成されています。

日本のボトリングパートナー

- 1 北海道コカ・コーラボトリング株式会社
- 2 みちのくコカ・コーラボトリング株式会社
- 3 コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社
- 4 北陸コカ・コーラボトリング株式会社
- 5 沖縄コカ・コーラボトリング株式会社

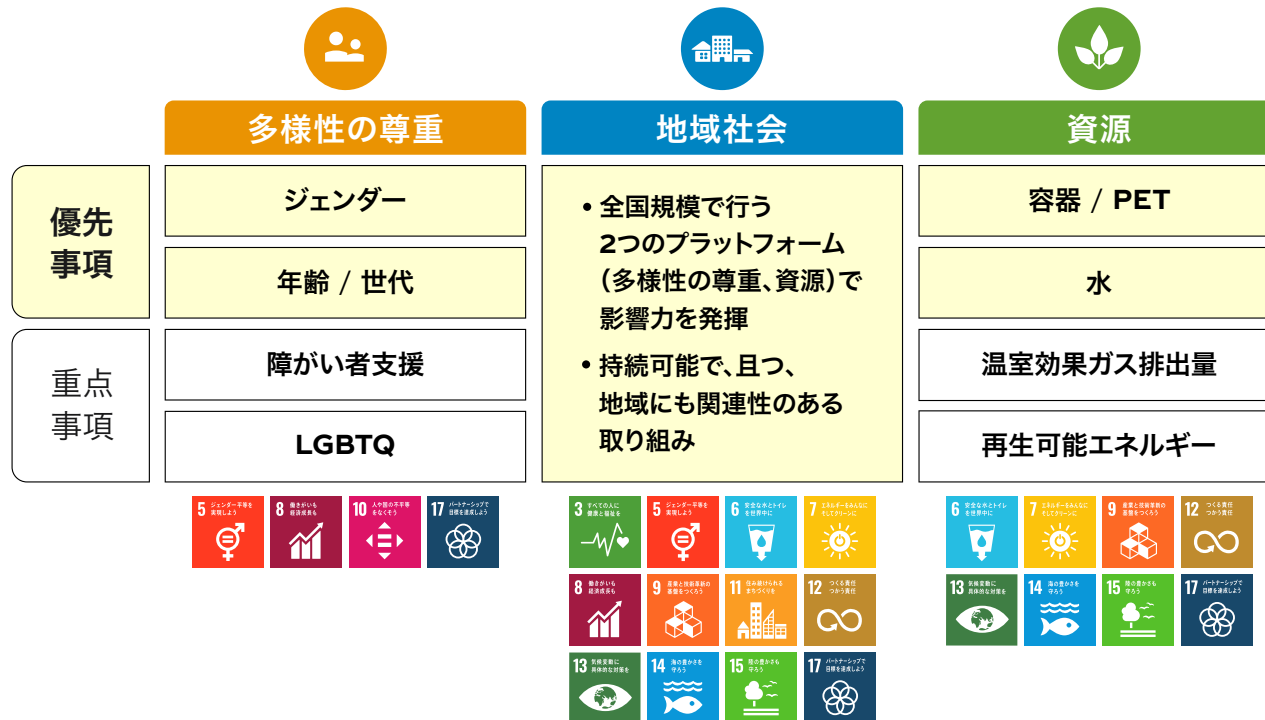


日本のコカ・コーラシステムのサステナビリティ

日本コカ・コーラとコカ・コーラ ボトラーズジャパンは2019年、サステナビリティのグローバル目標達成に加えて、日本独自の課題をベースにした戦略を立案し、コカ・コーラシステム共通のアクションプランへ落とし込むことを目的に、サステナビリティの課題抽出と優先順位の特定のための大規模な共同調査を行いました。その結果、「多様性の尊重 (Inclusion)」「地域社会 (Communities)」「資源 (Resources)」の3つのプラットフォームと直近に取り組むべき9つの重点課題が合意されました。

サステナビリティ活動の目的

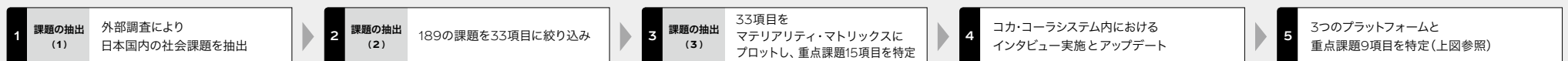
コカ・コーラシステムは、環境や日常生活、私たちを取り巻く地域社会などの各場面で、日本が直面する重要な課題に対し、ビジネスを通じて変化をもたらし、さわやかさを届けながら、未来を共創していくことに責任を持って取り組みます。



日本のコカ・コーラシステムのサステナビリティフレームワーク (3つのプラットフォームと9つの重点課題)

9つの重点課題はさらに、喫緊の課題とする優先事項5項目と、現時点では優先度は比較的低いが重要と捉える重点事項4項目に分類しています。また、3つのプラットフォームにおける持続可能な開発目標 (SDGs) との関わりを検証し、SDGsの達成も目指します。日本のコカ・コーラシステムは、重点課題をもとに、さらに具体的なアクションを再構築しています。また、日本のコカ・コーラシステムの活動の進捗状況や成果は、引き続きWEBサイトなどを通じて定期的に報告すると同時に、NPOや外部専門機関、有識者など第三者意見を取り入れ、時代に即した活動に取り組めます。

9つの重点課題 (マテリアリティ) 特定プロセス





多様性の尊重

ダイバーシティ&インクルージョンを推進

ジェンダー

男性育児休暇を推奨

社内制度を改定し、男女ともに仕事も家庭も充実できるように3者面談の機会を設け、対象者を支援することにより社員の活躍推進につなげています。

【富山県主催】

煌めく女性リーダー塾への参加

リーダーを目指す女性社員の相互交流と自己研鑽を図り、業種・職種の枠を超えたネットワークを構築しています。

企業内家庭教育講座

富山県教育委員会と連携しながら家庭教育や子どもへの接し方などについて学び、男女問わず仕事と育児の両立を推進しています。



年齢 / 世代

CDP(キャリアデベロップメントプラン)

社員が幸せになる会社づくりのため上長がメンターとなり、個人のキャリア形成希望と会社の希望の擦り合わせを面談を通して実施し、社員のキャリア形成支援を行っています。

エイジ研修

25歳の同世代がキャリアデザインやロジカルシンキングなどの研修を通じ、今後の自身の幸せと会社の成功を考え、主体性をもってより良いパフォーマンスを発揮できるよう実施しています。

外国人留学生の採用

外国人留学生の多様な習慣・考え方、仕事への積極的な取り組み方、自己の能力を高めるための前向きな姿勢などを取り入れ、人と会社を成長させるべく、外国人留学生の採用を行っています。

障がい者支援

全肢連への支援

コカ・コーラシステムは、1980年より一般社団法人全国肢体不自由児者父母の会連合会(全肢連)を支援しています。全国各地の学校や公民館などに、全肢連のステッカー付き自動販売機(全肢連管理)を設置し、その売上金の一部を全肢連・県肢連の活動費に充てています。

ご協力ありがとうございました。
この売上金の一部は
福祉活動資金に活用されています。



全国肢体不自由児・者父母の会連合会
本事業は当会の都道府県の会で全国的に実施しております。

LGBTQ

就業規則や 福利厚生制度を改定 (2021年5月20日施行)

賃金や休暇制度の取り扱いについて、戸籍上の配偶者に限らず、事実婚・同性婚のパートナーも配偶者と同等に扱うこととしました。

【就業規則改訂の一例】

旧 次の各号のひとつに該当し、休暇を申請したときは、特別休暇を与える。
介在する休日は、休暇日数に算入しない。
(配偶者についての定義の記載はなし)

新 次の各号のひとつに該当し、休暇を申請したときは、特別休暇を与える。
介在する休日は、休暇日数に算入しない。
なお、本条における配偶者とは、戸籍上の配偶者に限らず、配偶者に相当する事実婚・同性婚を含むものとし、本条以外の就業規則および社内規定においても同様の取り扱いとする。



地域社会

サステナブルな地域社会づくりに貢献

災害協定

本業を通じた社会貢献として、災害時における飲料提供協力などに関する自治体との協定のもとに災害支援型自動販売機の設置を進めています。

災害発生時には手動のみならず、遠隔操作でも自動販売機内の飲料を無料で取り出すことが可能になります。

また、災害情報や避難情報などをいち早く自動販売機上部の電光掲示板に表示することが可能で、自動販売機ならではの機能を活用した支援を行っています。



【災害協定締結状況】

協定締結自治体数	設置台数
長野県	38 120
富山県	18 172
石川県	21 207
福井県	7 62
合計	84 561

2021.04.30 現在

水分補給セミナー

正しい水分補給の方法や熱中症のメカニズムをお伝えし、熱中症予防に役立てていただくために、お取引企業を中心に水分補給セミナーを開催しております。お取引企業に限らず、学校、施設、スポーツクラブなどにも出張し、地域のみなさまの健康づくりのサポートを進めています。



地域スポーツチームへの支援

スポーツシーンのトップに位置する地域スポーツチーム(サッカー・野球・バスケットボール・バレーボール等)への応援を通じて、地域へ感動や希望、笑顔を届ける活動を行っています。

各スポーツチームへは、コカ・コーラ製品を通じてさわやかさと、活力・希望を提供し、支援機能付き自動販売機の売上げの一部を、チームの活動資金として寄付しています。



長野県立こども病院支援自販機(信州)

長野県内唯一の小児専門病院である長野県立こども病院は2015年度から高度専門医療や人材育成の事業支援のためにこども病院寄付プログラムを開始しました。

当社はその主旨に賛同し、2017年4月に長野県立こども病院にはじめて支援自販機を設置し、2021年現在は20社45台まで展開しています。

寄付金は未来ある子どもたちの療養環境の整備に役立てていただいています。



【支援金額実績】

	支援金額
2017年度	196,457円
2018年度	536,353円
2019年度	520,521円
2020年度	444,496円
4年間合計	1,697,827円

うるおいの森づくり

昭和37年の創業以来、ふるさとの豊かで良質な地下水の恩恵を受け、清涼飲料の製造・販売を行っています。この豊かな水の恩恵に感謝し、次世代に確実に残していかなければならないと考え、平成17年から庄川水系の山間で植林活動を実施し、今年で17年目の活動となります。

【うるおいの森 活動実績】

延べ参加者数	4,865人
植林面積	7.42㌥
植林本数	14,331本

2020.12.31 現在



清掃ボランティア活動

社員一斉美化奉仕活動

1979年より、地域社会への貢献と環境美化意識の向上を目的とし、毎年グループ社員約1,200名が一斉に参加して主要道路や公園、海岸、河川敷など約15ヶ所の清掃活動を実施しています。

各地に広がる清掃活動の輪

地域のみなさんと連携し、各事業所でも継続的に取り組んでいます。

- 富山県では六渡寺自治会や地元ボランティアグループ「六友会」とともに、射水市の六渡寺海岸での海岸清掃に社員有志で参加しています。
- 石川県では石川の海岸線をきれいにする海岸愛護運動「クリーン・ビーチいしかわ」の活動に参加しています。
- 長野県では、諏訪湖アダプト・プログラムに参加し、諏訪湖岸や、道路沿いの除草・清掃作業に参加しています。



学校への出前授業

富山県中学生ものづくり事業

富山県内の中学生に「学ぶおもしろさ」、「学びへの挑戦」を体験していただき、富山県のものづくり人材の育成を目指している事業で、北陸コカ・コーラも参加し、少子化や理科離れが課題となるなか、将来の進路を意識し始める子どもたちに、講師の体験談を交え、ものづくりの楽しさや働く意義を伝え、SDGsに貢献しています。

富山経済同友会との連携

富山経済同友会の会員である稲垣晴彦会長が、学校の課外授業のゲスト講師として教壇に立ち、人生の先輩として生き方や考え方を伝えました。



SDGs自販機 (富山県 富山市、南砺市、砺波市)

2021年2月、フードロス削減を目的とした「SDGs自動販売機」を富山市と協同し、設置しました。全国の自治体では初の取り組みです。本自動販売機にセットする製品の一部は在庫の偏りにより生じた余剰を活用しています。また、売り上げの一部は富山市へ寄付され、SDGsの取り組みに活用されます。その後、4月には南砺市、5月には砺波市にも設置されました。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



南砺市オリジナルさらさらを模したSDGsマークが施された自動販売機の前で記念撮影する、井辻社長、稲垣会長、南砺市田中幹夫市長

SDGsに関する包括連携協定 (富山県 砺波市、南砺市)

2021年4月12日には、砺波市と北陸コカ・コーラグループおよびGRNグループは、「SDGs包括連携協定」の締結を結び、続いて4月26日には、南砺市と北陸コカ・コーラグループが「SDGs包括連携協定」を締結しました。北陸コカ・コーラグループ、GRNグループ、両市は、それぞれが持つ資源を有効活用し、持続可能な社会の実現と、新たなビジネスチャンスを広げていきます。



砺波市と、3社協定の協定書にサイン



南砺市産間伐材を使用した、協定書ホルダー



協定書を手に砺波市長と記念撮影



挨拶する稲垣会長

二酸化炭素測定器を寄贈 (福井県 鯖江市)

北陸コカ・コーラは2017年に「めがねのまちさばえ応援企業」に認定され、これまで福井県鯖江市とシティプロモーションの推進及びSDGs17の目標達成に向けて共に取り組んできました。これまでも鯖江市に9台設置した「めがねのまちさばえ自販機」の売上の一部より鯖江市が取り組むSDGsロゴのベストや2020年に設立された鯖江市SDGs推進センターで使用する椅子等、2021年は鯖江市に二酸化炭素測定器を寄贈しました。鯖江市はSDGs未来都市に認定されており、二酸化炭素測定器はSDGs3番目の目標である「すべての人に健康と福祉を」に基づき、主に会議室やコロナワクチン集団接種会場で使用されます。



贈呈式の様子

と な み
砺波工場

豊かな自然に抱かれた富山県砺波市にある砺波工場では、大型・小型兼用無菌ライン、缶ライン、PETライン、ガラスびんラインの5ラインを備え、80種類以上の製品を製造できる体制を整えています。

北陸コカ・コーラさわやかパーク



砺波工場の隣にある北陸コカ・コーラさわやかパークでは北陸コカ・コーラボトリング株式会社創立50周年を記念してつくられた“緑あふれる憩いの公園”です。

季節に合った色とりどりのお花を楽しむことができ、地域のみなさんに親しまれる公園を目指しています。

住所：富山県砺波市東保1202-1

利用時間：9:00～18:00 ※11月～3月は17:00まで

[専用駐車場有り] ※開園時間帯は常時駐車できます(予約不要)

公益財団法人 稲垣小太郎記念奨学財団

2005年3月1日に創設者である稲垣小太郎の30回忌を記念して設立した当財団では、青少年の向学の志にできる限りの援助の手をさしのべ、富山県の教育振興と地域社会にお役に立てればと考え、これまでに96名の富山県内高等学校出身の学生に奨学援助を行っています。



公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団奨学金

心豊かでたくましい人づくり (Healthy Active Life) を理念とし、環境教育、教育支援を柱として、次世代を担う青少年の育成を通じ、豊かな社会の形成を目指しています。このうち、奨学支援では、大学在籍中の支援を行い、これまでに199名の卒業生(当社エリア)を送り出しています。2021年度からは環境、特に地球・環境資源関連領域に関して、より専門的な研究を行う大学生の大学院進学も対象となりました。



い・ろ・は・す「水源保全プロジェクト」

「い・ろ・は・す」の全国6ヶ所の採水地をはじめとした全国23ヶ所の水源保全等の活動を行う団体に公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団を通じて、「い・ろ・は・す」の売上の一部を寄付し、水資源の保護活動を支援しています。



団体名		直近4年 寄付金額
富山県	富山県(農林水産部森林政策課)	602,454円
石川県	公益財団法人石川県緑化推進委員会	613,929円
福井県	公益財団法人福井県緑化推進委員会	371,883円
長野県	長野県(林務部森林政策課)	837,442円



長野県庁での贈呈式



資源

資源の持続可能な利用を推進

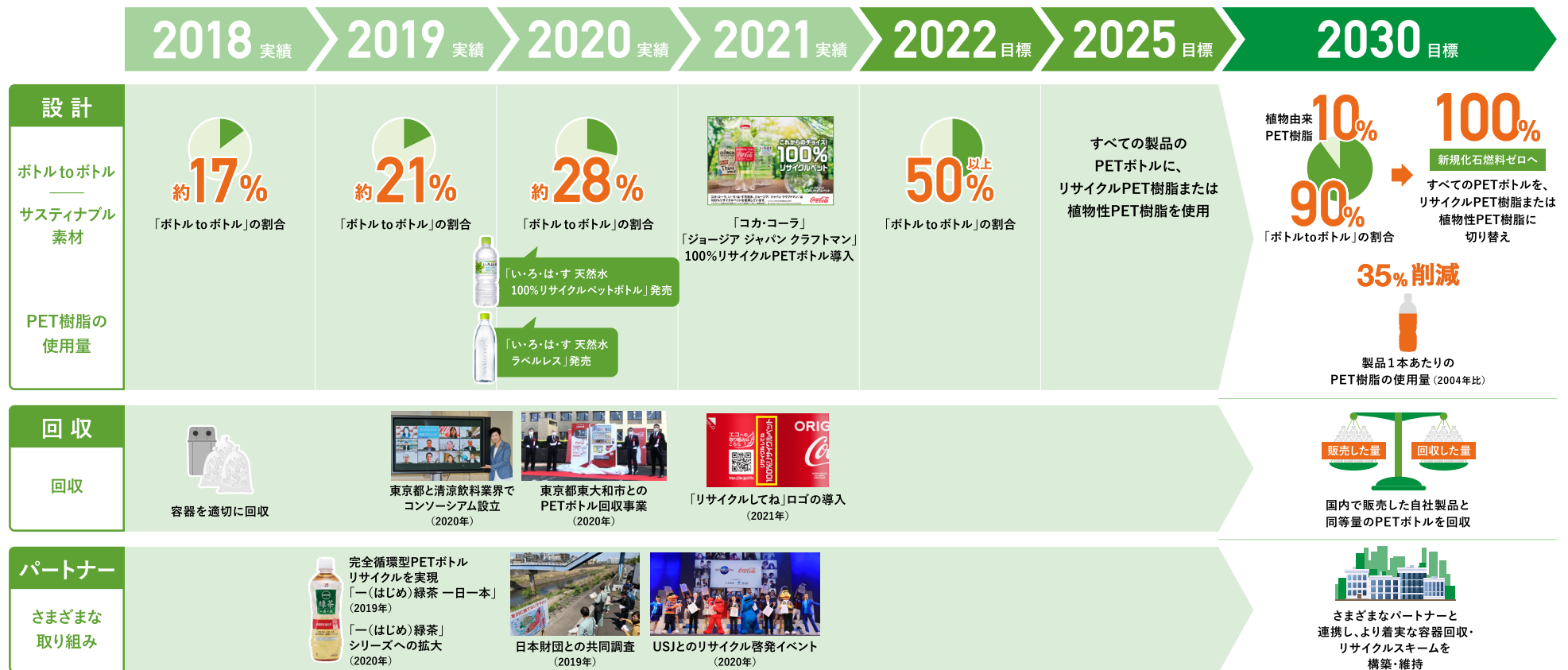


容器の2030年ビジョン

日本のコカ・コーラシステムは、グローバルビジョン「World Without Waste (廃棄物ゼロ社会)」に基づき、2018年1月に「容器の2030年ビジョン」を策定し、「設計」「回収」「パートナー」の3つを柱とした取り組みを推進しています。2019年7月には、従来の目標達成の前倒しを含む新たな環境目標を発表しました。「ボトルtoボトル*」などの推進を通じ、2030年までにすべてのPETボトルを100%サステナブル素材に切り替えるなど、グローバル目標よりも高い日本のコカ・コーラシステム独自の数値目標を設定し、その達成を目指しています。

※使用済みPETボトルを回収・リサイクル処理したうえで、PETボトルとして再生し、飲料の容器として用いること

日本のコカ・コーラシステム「容器の2030年ビジョン(ロードマップ/実績)」 2021年5月 更新



① 設計

2030年までにサステナブル素材に100%切り替え、
新たな石油由来の原料を使用しない容器の完全導入へ

日本のコカ・コーラシステムでは「容器の2030年ビジョン」の下、リサイクルPET樹脂や植物由来PET樹脂の活用を通じて、新たな石油由来の原料を使用しない容器の完全導入を目指しています。また、1970年代より、資源の有効活用と製造時・輸送時の環境負荷削減、そしてお客様の利便性向上のため、容器・包装の技術革新に継続的に取り組んでいます。

容器の2030年ビジョン「設計」の目標

目標 ①

「ボトルtoボトル」を推進し、2022年までにリサイクルPET樹脂の使用率50%以上、2030年にはその比率を90%までに高め、新たな石油由来の原料を使用しない容器の完全導入。

目標 ②

2025年までに、日本国内で販売するすべての製品の容器をリサイクル可能な素材への変更。同年までにすべての製品のPETボトルにサステナブル素材（リサイクルPET樹脂または植物由来PET樹脂）を使用。

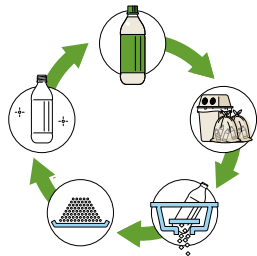
目標 ③

2030年までにすべてのPETボトルを100%サステナブル素材に切り替え、新たな石油由来の原料の使用ゼロの実現。

目標 ④

2030年までに、製品1本あたりのPET樹脂の使用量を35%削減（2004年比）。

① 「ボトルtoボトル」の推進



日本のコカ・コーラシステムでは、使用済みPETボトルを回収・リサイクル処理したうえで、PETボトルとして再生し、飲料の容器として用いる「ボトルtoボトル」を推進し、プラスチック資源の循環利用に取り組んでいます。

② リサイクル可能な容器の拡大



日本のコカ・コーラシステムは現時点でリサイクルできていないパウチの容器についても、品質保持などの技術的課題をクリアしながら研究開発を続け、2025年までに、日本国内で販売するすべての製品の容器をリサイクル可能な素材へと切り替えます。

③ 植物由来PET樹脂の導入



日本のコカ・コーラシステムは2009年、業界に先駆けて「爽健美茶」「い・ろ・は・す」などに、植物由来PET樹脂を一部使用した「プラントボトル」を導入しました。現在、国内で消費される植物由来PET樹脂の約22%が、コカ・コーラ社製品の容器に使用されています。

④ 容器の軽量化による樹脂使用量削減



1996年、日本コカ・コーラシステムの水製品用小型PETボトル（500ml）の重さは32gでした。2009年発売の「い・ろ・は・す」は20g（63%）軽量化、当時国内最軽量*となる約12gを実現しました。飲料容器としての性能を保ちながら、PET樹脂の使用量を削減しています。

*2009年3月時点。国内製造品500mlPETボトル対象。日本コカ・コーラ調べ

① 設計

「コカ・コーラ」や「ジョージア」の主要製品に
100%リサイクルPETボトルを拡大

2020年3月の「い・ろ・は・す 天然水」に続き、2021年5月には旗艦ブランドである「コカ・コーラ」、「ジョージア」の主要製品にも100%リサイクルPETボトルを導入しました。1本あたり約60%、コカ・コーラシステム全体で年間約35,000トンのCO₂排出量を削減、石油由来原料からつくられる新たなプラスチックを約30,000トン削減できる見込みです*。さらに、「コカ・コーラ」製品700mlPETと「ジョージア ジャパン クラフトマン」500mlPETは、容器の軽量化を実現、プラスチック使用量とCO₂排出量の削減にも貢献します。また、製品パッケージに「リサイクルしてね」ロゴを掲示することにより、お客様とのコミュニケーションも強化していきます。これらの取り組みにより、2022年には日本のコカ・コーラシステムの「ボトルtoボトル」率50%達成を目指しています。

※一般的なPETボトルから100%リサイクルPET素材に切り替えた場合。対象製品合計、前年出荷実績に基づく当社試算。



コカ・コーラとい・ろ・は・す天然水は100%リサイクルペットを使用しています。

リサイクルペット素材を100%使用したペットボトルを使用しています（一部製品を除く） 詳しくはこちら： <https://www.cocacola.co.jp/sustainability>



「リサイクルしてね」ロゴの導入について

プラスチック循環型社会の実現に向けた啓発活動の一環として、コカ・コーラシステムでは2021年2月下旬より順次、全てのリサイクル可能な製品パッケージに共通の「リサイクルしてね」ロゴを導入し、消費者のみならず、消費者へのコミュニケーションを強化しています。特に、リサイクルPET樹脂を100%使用した容器のラベルには「100%リサイクルペット」の表示をあわせて記載することで、消費者のみならず、店頭などでより環境負荷の低い製品を選んでいただきやすくなりました。「リサイクルしてね」ロゴは、今後製品パッケージのみならず、広告物やPOP、リサイクルボックスなどにも順次展開を予定しています。

リサイクルしてね
いつもありがとう、またよろしくね

リサイクルしてね
100%リサイクルペット



ラベルレス製品



〈2020年4月〉
「い・ろ・は・す 天然水 ラベルレス」
を導入。「い・ろ・は・す」のロゴを
エンボス加工したスタイリッシュな
デザインを採用

「ラベルレス製品」は、製品容器からラベルをなくすことにより、ラベルをはがす手間をなくし、リサイクルのための分別を楽に行えるようにした製品です。2020年4月、「資源有効利用促進法」の省令一部改正※に伴い、識別マークを表示したタックシールを省略した“完全ラベルレス製品”を実現することが可能になりました。

これに伴い日本のコカ・コーラシステムは「い・ろ・は・す 天然水 ラベルレス」を導入。お客様からは、「分別の手間が省けるので助かる」「プラスチックごみも減らすことにつながる」といった好意的な声が数多く寄せられています。

2020年8月には「綾鷹」「爽健美茶」「カナダドライ ザ・タンサン・ストロング」、2021年2月「アクエリアス」、3月には「い・ろ・は・す 天然水 2LPET」にもラベルレス製品を拡大しました。

※省令改正は、廃棄物の削減の促進、消費者が識別マークを表示したタックシールなどをはがし分別を省くことを目的としており、より簡単に、楽に使用済みPETボトルをリサイクルに適した状態で資源回収に出すことができます。



ラベルレス製品を拡大
〈2020年8月〉「綾鷹」「爽健美茶」「カナダドライ ザ・タンサン・ストロング」
〈2021年2月〉「アクエリアス」
〈2021年3月〉「い・ろ・は・す 天然水 ラベルレス 2L」



通常ラベルに記載している
原材料名などの法定表示を
外装ダンボールに記載
(ケース販売のみ)

第21回グリーン購入大賞 プラスチック資源循環特別部門 大賞受賞



環境NPO団体のグリーン購入ネットワークが運営している「持続可能な調達」を通じて、グリーン市場の拡大に貢献した取り組みやSDGsの目標達成に寄与する取り組みを表彰する「第21回グリーン 購入大賞」のプラスチック資源循環特別部門において、「い・ろ・は・す 天然水 100%リサイクルペットボトル」、「い・ろ・は・す 天然水 ラベルレス」の2製品が大賞を受賞しました。



これらの製品は「ボトルtoボトル」による100%リサイクルPETボトル、ラベルレスは業界に先駆けた取り組みであり、積極的にリサイクル素材を採用していること、水平リサイクルの社会実装に貢献している点が評価されました。

② 回収

PETボトルの回収から粉砕(フレーク化)までをグループ会社で内製化



株式会社北陸リサイクルセンター(石川県白山市)

飲料を扱う企業責任として、2002年よりグループ会社の北陸リサイクルセンターで容器のリサイクル事業を発足し、回収した空容器の分別・圧縮・再資源化を19年にわたり行っています。

北陸エリアでは数少ないPETボトルの粉砕(フレーク化)までを行う中間処理施設となっており、公益財団法人日本容器包装リサイクル協会のPETボトル再商品化事業者として認可されています。

リサイクルの流れ

回収・保管

当事業所からだけでなく、行政からも缶・PETボトルの回収を行っています。

選別・圧縮

回収された空缶・PETボトルおよび空びんを種類ごとに分別。缶・PETボトルは圧縮します。

粉砕・洗浄

事業系・行政系の梱包およびバラのPETボトルは再度選別され、粉砕(フレーク化)、ラベル剥離、キャップ分離、洗浄し、再生事業者へ搬入されます。

再商品化

資源として処理された加工品は素材毎に再商品化利用事業者へ渡され、新しく生まれ変わります。



PETボトルフレーク



たまご梱包バック



プリフォーム (PETボトルの原型)



ノベルティグッズ

③ パートナー

陸域から河川への廃棄物流出メカニズムの共同調査(日本財団)

飲み終わったPETボトルのうち、河川や海などにごみとして流出されているのは、2%未満と考えられています(日本コカ・コーラ推計)。

しかしながら、我々が使用した容器は1本たりとも海に流入させないことを目標として日本財団と日本コカ・コーラは調査を開始し、当社でも富山県神通川流域を対象に自動販売機脇のリサイクルボックスの調査を行いました。

昨年の調査ではリサイクルボックスからの漏洩と河川で見つかる飲料空容器の相関までは見いだせなかったため、今後さらなる調査を実施していきます。



Coca-Cola

北陸コカ・コーラボトリング株式会社